

PET/MRI 検査を受けられる方へ

～特にご注意をお願いしたい事項～

- 絶食について

食事状態に強く影響される検査のため4時間前から絶食して下さい。

飲水は可能ですが、水以外(コーヒー、紅茶、ジュース、お茶等)は飲まないでください。

- 服薬について

検査当日の服薬に関して、主治医の指示がない限り通常通り服用してください。

➤ 糖尿病をお持ちの方へ

血糖降下薬内服またはインスリン注射は、絶食中(4時間)中止してください。

中止の判断が難しい場合はあらかじめ主治医と相談してください。

- 運動・仕事について

検査前日より、長時間の歩行や疲労の残るような運動・力仕事は行わないでください。

PET 薬剤が筋肉に集まることで画像が不鮮明になり検査の妨げになります。

- 妊娠中の方は検査できません

授乳中の方は薬剤投与後 24 時間、授乳を避けてください。

薬剤投与後 12 時間、乳幼児、妊産婦との密接な接触はできるだけ控えてください。

- 体内に金属・機器を留置されている方は必ず申し出てください

体内に金属・機器を留置されている方は、問診票にご記入、もしくはその旨を担当医、または検査担当技師に申告してください。金属・機器の破損や故障、種類によっては検査できない場合があります。

- その他の注意事項

予約制ですので予約時間に遅れないようお越しく下さい。

お薬手帳・ペースメーカー手帳などお持ちの方は、検査日当日ご持参ください。

装置の不具合等によりやむなく検査を中止・延期することがあります。ご了承ください。

検査終了後、服薬・食事に関して制限はありません。

FDG PET/MRI 検査について

● 注射薬(FDG)について

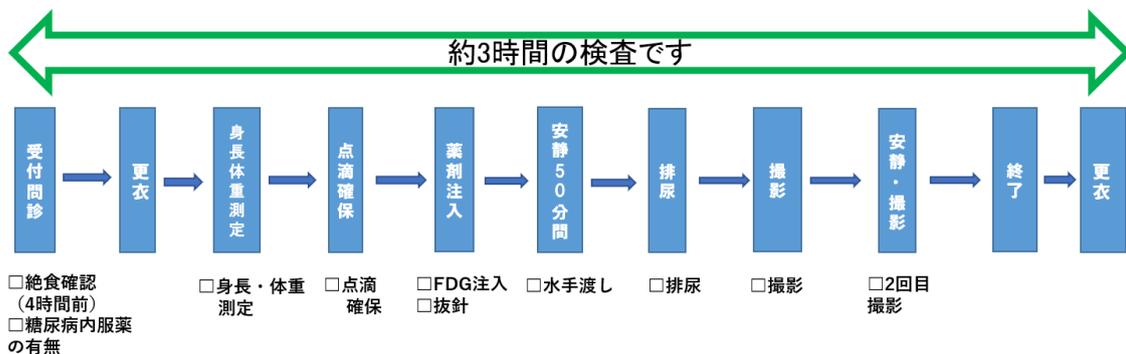
この検査は、フルオロデオキシグルコース(FDG)に放射性同位元素(^{18}F)を標識した薬剤を静脈内に投与したあと撮影を行い、体内の糖代謝能を見ることでがんなどの診断に用いられます。糖代謝の盛んな臓器(脳・心臓・肝臓など)、薬剤排泄路となる尿路系臓器(腎臓・尿管・膀胱など)、その他胃や大腸などに生理的に薬剤が集積するため、これらの臓器における診断は困難となりますのでご理解ください。

● 検査の安全性と危険性について

当院で使用する薬剤(^{18}F -FDG)は、製薬会社より購入したもの、また日本核医学会および日本アイソトープ協会が定めるガイドラインに準拠し院内で当日製造され、品質管理試験に合格したものです。この薬剤による副作用の可能性は極めて低く、PET検査 1 回での被曝量は約 3.5mSv(ミリシーベルト)、自然界から受ける年間放射線量は約 2.4mSv、胃の X 線検査は 1 回あたり約 4mSv であり、この検査での線量による健康障害が起こることはありません。

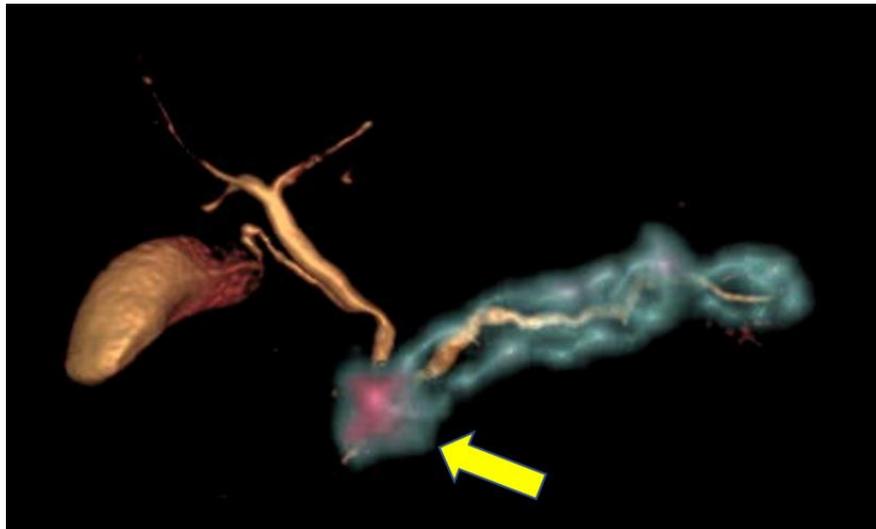
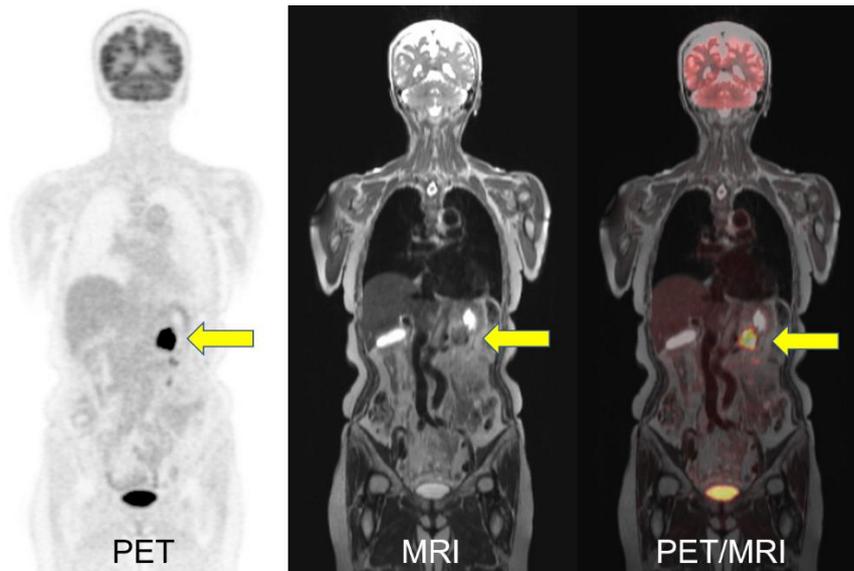
● 検査のながれ

所要時間は約 3 時間です。(撮影時間は約 30~60 分、直径約 60cm の筒の中に入り撮影します。)続けて 30~60 分間仰向け、閉所で静止することが困難な方は予約時に医師とご相談ください。※追加で撮影する場合がありますのでご了承ください。



- PET/MRI 検査について

PET とは Positron Emission Tomography の略で、投与された FDG の体中での分布を調べる事ができる検査です。これに MRI (Magnetic Resonance Imaging、磁気共鳴画像) を組み合わせて、PET/MRI 融合画像を作成し診断します。膵がんを初めとする悪性腫瘍は FDG を取り込むため、PET で検出できるとともに、膵管や膵実質など軟部組織の描出に優れる MRI を組み合わせることにより、正確に病変の部位を調べることができます。



* 説明用の画像であり、実際の診断で用いる画像とは異なります

* PET/MRI 検査で検出できるがんは、主にそのサイズに限界があります。小さながんは検出できない場合があります、注意が必要です。